
石綿健康被害救済制度における
平成 18～29 年度被認定者に関する
ばく露状況調査報告書

抜粋版



独立行政法人 **環境再生保全機構**

平成 31 年 3 月

(8) 尼崎市の詳細集計（ばく露(エ)分類）

集計方法

平成 18 年度から平成 29 年度までのアンケート回答者のうち、2-2.(3)ばく露分類別集計が(エ)分類であり、対象期間である昭和 20 年～平成元年(1945 年～1989 年)間に尼崎市に居住歴がある者の累計において、行政地区、時点(昭和 30 年、40 年、50 年、60 年)によるクロス集計を行った。

行政地区は中央地区、小田地区、大庄地区、立花地区、武庫地区、園田地区の 6 地区とし、記述不十分等により分類できない場合は地区不明とした。

地区の分類に当たっては、尼崎市史第 10 巻付図「尼崎市小字図」等を参考とした。

また、集計は下記の 2 通りの居住歴により行った。

1) 最長居住歴による集計

「(7) 住所別集計」において尼崎市に最長居住歴のある者(医療費・未申請弔慰金 272 人、施行前弔慰金 121 人)について、対象期間内に尼崎市内で最も長く居住した行政地区(以下「最長居住地区」という。)により集計した。

対象期間中に複数の行政地区に居住歴がある場合には、年単位で計算して最長居住地区を各人 1 つ選択した。対象期間中に最長居住区が複数あった場合は、その中で最も古い住所を 1 つ選択した。

2) 対象期間居住歴による集計

対象期間中に尼崎市に一度でも居住歴がある者について、対象期間中に一度でも居住した行政地区により集計した。対象期間中に複数の行政地区に居住歴がある場合は、重複して集計した。なお、同じ行政地区内の異なる居住歴については 1 つの居住歴として扱い重複集計しなかった。

さらに、尼崎市に最長居住歴のある者を、地区不明の者を除き、医療費・未申請弔慰金 259 人、施行前弔慰金 111 人の「最長居住地」を地図上にプロットした。

結果

① 医療費・未申請弔慰金アンケート回答者

1) 最長居住歴による集計

最長居住歴による集計において、それぞれの地区に最も長く居住していた者は、中央地区 37 人(男 25、女 12)、小田地区 180 人(男 89、女 91)、大庄地区 4 人(男 2、女 2)、立花地区 11 人(男 5、女 6)、武庫地区 0 人、園田地区 27 人(男 14、女 13)、地区不明 13 人(男 4、女 9)で、合計で延べ 272 人であった(表 II-8-1)。

最も多い最長居住地区は小田地区であり、小田地区の者 180 人のうち、昭和 30 年時点に最長居住歴のある者は 102 人、昭和 40 年時点は 147 人、昭和 50 年時点は 109 人、昭和 60 年時点は 63 人であった（表Ⅱ－8－2）。

2) 対象期間居住歴による集計

対象期間居住歴による集計において、各地区に居住歴のある者は、中央地区 69 人（男 38、女 31）、小田地区 255 人（男 130、女 125）、大庄地区 19 人（男 12、女 7）、立花地区 40 人（男 19、女 21）、武庫地区 14 人（男 5、女 9）、園田地区 52 人（男 27、女 25）、地区不明 38 人（男 18、女 20）であり、合計で 487 人であった（表Ⅱ－8－1）。

最も多い居住地区は小田地区であり、小田地区の者 255 人のうち、昭和 30 年時点に居住歴のある者は 149 人、昭和 40 年時点は 204 人、昭和 50 年時点は 129 人、昭和 60 年時点は 99 人であった（表Ⅱ－8－3）。

◎ 施行前弔慰金アンケート回答者

1) 最長居住歴による集計

最長居住歴による集計において、それぞれの地区に最も長く居住していた者は中央地区 14 人（男 5、女 9）、小田地区 68 人（男 32、女 36）、大庄地区 5 人（男 2、女 3）、立花地区 8 人（男 4、女 4）、武庫地区 4 人（男 3、女 1）、園田地区 12 人（男 4、女 8）、地区不明 10 人（男 3、女 7）で、合計で延べ 121 人であった（表Ⅱ－8－1）。

最も多い最長居住地区は小田地区であり、小田地区の者 68 人のうち、昭和 30 年時点に最長居住歴のある者は 41 人、昭和 40 年時点は 59 人、昭和 50 年時点は 42 人、昭和 60 年時点は 32 人であった（表Ⅱ－8－2）。

2) 対象期間居住歴による集計

対象期間居住歴による集計において、各地区に居住歴のある者は、中央地区 21 人（男 9、女 12）、小田地区 107 人（男 51、女 56）、大庄地区 9 人（男 4、女 5）、立花地区 25 人（男 14、女 11）、武庫地区 9 人（男 7、女 2）、園田地区 22 人（男 10、女 12）地区不明 24 人（男 9、女 15）であり、合計で延べ 217 人であった（表Ⅱ－8－1）。

多い居住地区は小田地区であり、小田地区の者 107 人のうち、昭和 30 年時点に居住歴のある者は 62 人、昭和 40 年時点は 78 人、昭和 50 年時点は 54 人、昭和 60 年時点は 40 人であった（表Ⅱ－8－3）。

表Ⅱ－8－1. 尼崎市における地区別居住歴累計（アンケート回答者、エ分類） (人)

給付	行政区	最長居住歴			対象期間に 居住歴がある者		
		男	女	計	男	女	計
医療費・未申請弔慰金	中央地区	25	12	37	38	31	69
	小田地区	89	91	180	130	125	255
	大庄地区	2	2	4	12	7	19
	立花地区	5	6	11	19	21	40
	武庫地区	0	0	0	5	9	14
	園田地区	14	13	27	27	25	52
	地区不明	4	9	13	18	20	38
	合計	139	133	272	249	238	487
施行前弔慰金	中央地区	5	9	14	9	12	21
	小田地区	32	36	68	51	56	107
	大庄地区	2	3	5	4	5	9
	立花地区	4	4	8	14	11	25
	武庫地区	3	1	4	7	2	9
	園田地区	4	8	12	10	12	22
	地区不明	3	7	10	9	15	24
	合計	53	68	121	104	113	217



表Ⅱ－８－２．尼崎市における最長居住地区別累計（アンケート回答者、エ分類） (人)

給付	行政区	最長居住歴	うち、昭和30年時点	うち、昭和40年時点	うち、昭和50年時点	うち、昭和60年時点
			に居住歴のある者	に居住歴のある者	に居住歴のある者	に居住歴のある者
医療費・未申請弔慰金	中央地区	37	20	31	27	19
	小田地区	180	102	147	109	63
	大庄地区	4	2	3	3	3
	立花地区	11	5	6	8	4
	武庫地区	0	0	0	0	0
	園田地区	27	13	15	17	13
	地区不明	13	10	10	6	2
	合計	272	152	212	170	104
施行前弔慰金	中央地区	14	9	11	8	4
	小田地区	68	41	59	42	32
	大庄地区	5	2	3	4	4
	立花地区	8	2	2	6	6
	武庫地区	4	1	2	4	3
	園田地区	12	6	9	8	5
	地区不明	10	7	8	6	2
	合計	121	68	94	78	56

<参考>

尼崎市地区別人口（男女計） (人) 各年10月1日時点

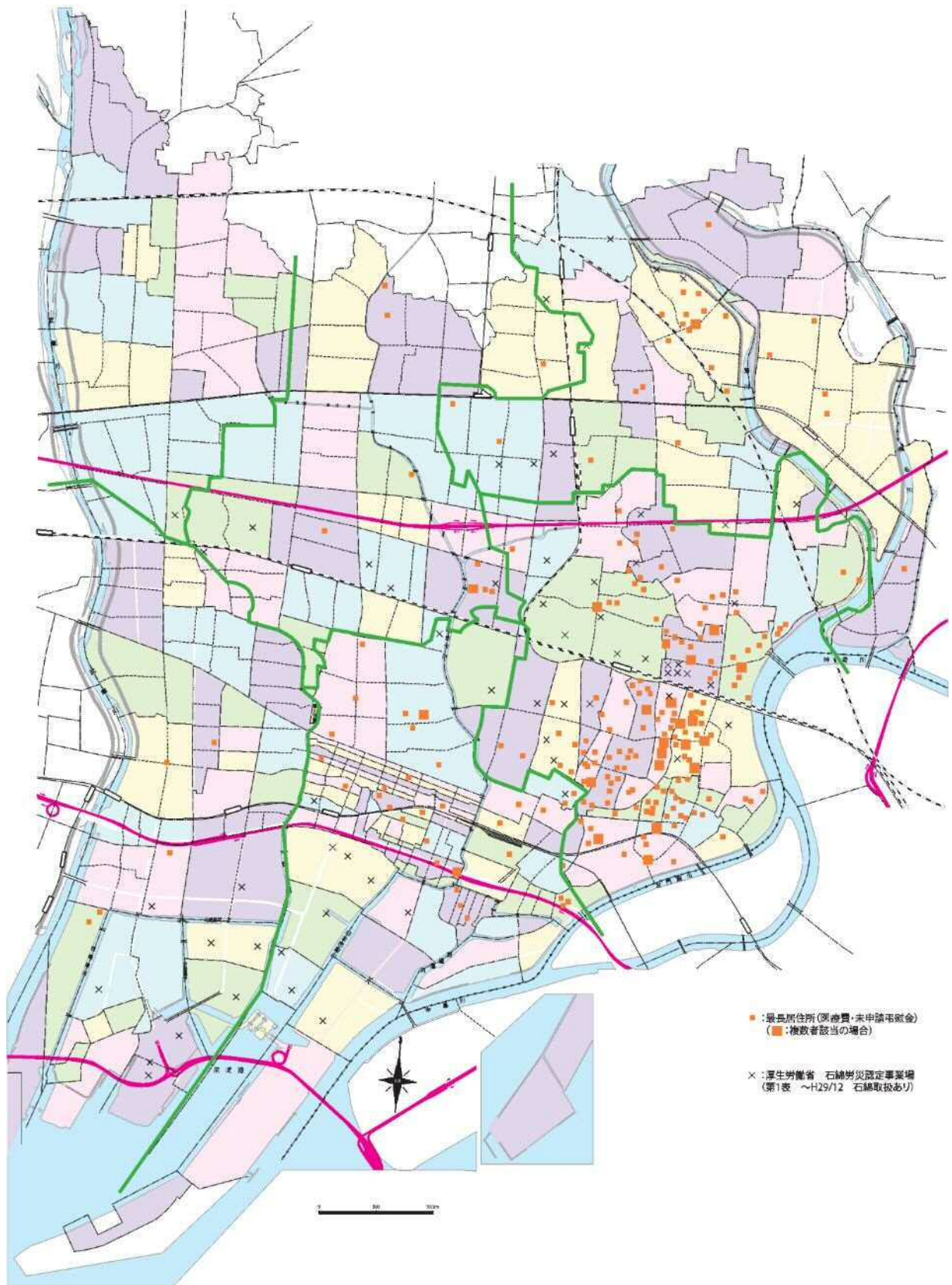
行政区		昭和30年	昭和40年	昭和50年	昭和60年
人口	中央地区	90,984	99,331	77,010	63,499
	小田地区	84,986	110,732	100,005	86,524
	大庄地区	68,192	98,706	85,833	70,205
	立花地区	47,822	93,248	124,252	119,454
	武庫地区	13,340	34,604	66,141	76,159
	園田地区	30,183	64,369	92,542	93,274
	尼崎市合計	335,507	500,990	545,783	509,115

出典：尼崎市統計書（昭和44年、昭和56年、昭和60年）など

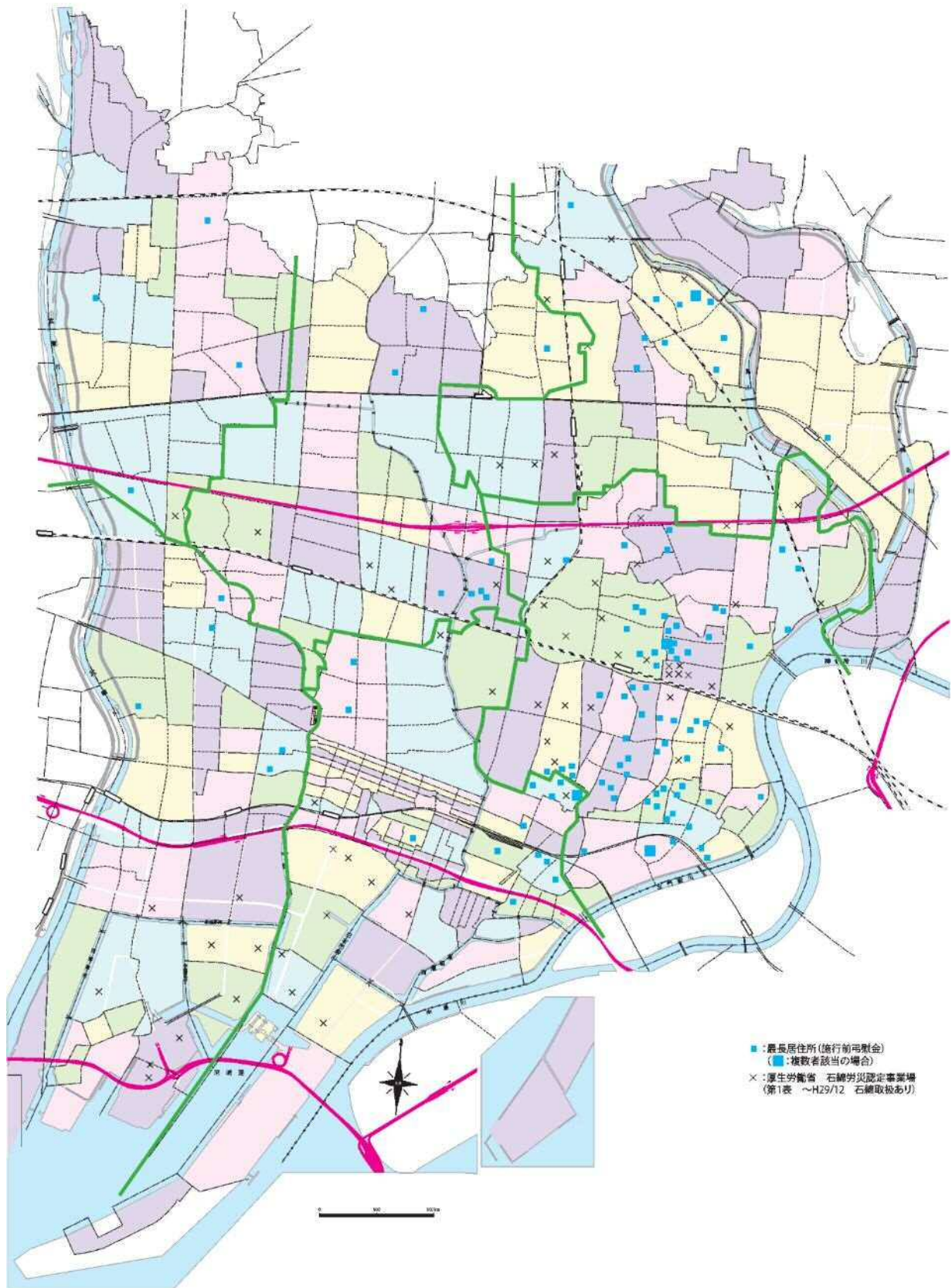
表Ⅱ－８－３．尼崎市における居住歴別累計（アンケート回答者、エ分類） (人)

給付	行政区	対象期間に居住歴がある者	うち、昭和30年時点	うち、昭和40年時点	うち、昭和50年時点	うち、昭和60年時点
			に居住歴のある者	に居住歴のある者	に居住歴のある者	に居住歴のある者
医療費・未申請弔慰金	中央地区	69	35	41	29	24
	小田地区	255	149	204	129	99
	大庄地区	19	5	7	5	6
	立花地区	40	10	12	18	15
	武庫地区	14	0	1	4	5
	園田地区	52	16	25	25	24
	地区不明	38	19	15	8	5
	合計	487	234	305	218	178
施行前弔慰金	中央地区	21	15	13	9	5
	小田地区	107	62	78	54	40
	大庄地区	9	4	7	4	5
	立花地区	25	4	6	11	10
	武庫地区	9	1	3	4	5
	園田地区	22	9	12	12	10
	地区不明	24	7	13	7	3
	合計	217	102	132	101	78

尼崎市・最長居住歴（医療費・未申請弔慰金、全疾病）



尼崎市・最長居住歴（施行前弔慰金、全疾病）



【参考】

③ ばく露分類別集計

アンケートの回答内容から被認定者の石綿ばく露状況について4つの種類に分類し、集計した。分類は「平成21年度被認定者に関する医学的所見等の解析及びばく露状況調査事業」を踏まえ、下記(ア)～(エ)とした。

(ア)「直接石綿を取り扱っていた職歴がある者、及び直接ではないが職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者。」(職業ばく露)

石綿を含んだ製品の製造加工等の作業に従事した者や、建築・建設関係作業や造船所内作業など石綿を使用した者、石綿が使用された現場での作業に従事した者を分類した。

(イ)「家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者が作業具を家庭内に持ち帰ることなどによる石綿ばく露の可能性のある者。」(家庭内ばく露)

家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者や、石綿製品の作業が自宅であり本人が従事したか定かでない者を分類した。

(ウ)「石綿取扱い施設に立ち入り等により、石綿ばく露の可能性が考えられる者。居住室内や事務室等に吹付け石綿が使用されており、屋内環境で石綿ばく露の可能性が考えられる者。」(施設立ち入り等ばく露)

荷物の運搬等で石綿取扱い施設に出入りがあった者や、吹付け石綿のある建物に立ち入った経験がある者等を分類した。

(エ)「(ア)～(ウ)のいずれにも該当しないため、石綿ばく露の可能性が特定できない者(居住地や学校・職場等の周辺に石綿取扱い施設がある場合も含む)。」(環境ばく露・不明)

(ア)～(ウ)のいずれにも該当しなかった者を分類した。この中には、石綿工場近くに居住地や職場等があった者も含まれている。

(ア)～(エ)の複数に該当する場合は、(ア)(イ)(ウ)の順で優先して1つに分類し、(ア)～(ウ)いずれにも該当しない場合は(エ)に分類した。